

# 令和5年度第1回上士幌町第Ⅱ期総合戦略検証会議 概要報告

## 日 時

令和5年6月19日(月) 13:30~14:40

## 場 所

上士幌町山村開発センター 集会室

## 出席者

29名(委員15名、関係課長等)

### 1 開会 (上士幌町企画財政課 宮部課長)

ご多忙のところ参加いただき感謝申し上げます。これより検証会議を開始する。開会にあたり、議長である竹中町長よりご挨拶申し上げます

### 2 挨拶 (上士幌町 竹中町長)

- ・2015年に地方創生が始まり、現在第2期を迎えている。地方の経済活性化や、少子高齢化・人口減少といった今日的な課題解決を目的として、総合戦略を策定し、その成果を見えるかたちで検証することとしている。
- ・これまで行政において検証という過程は重視されていなかったが、総合戦略においては数値目標を設定し、それに沿って定量的に評価、点検することとなっている。第Ⅰ期においては人口増という成果を上げることができた。
- ・人口という面に限れば、昨年は苦戦を強いられ、100名以上の人口減となった。人口減となった要因は今後検証していくこととなるが、基幹産業の一つである酪農が生産調整や飼料価格の急騰など、厳しい状況に置かれていることが要因ではないかと考えている。経済的な観点に立てば、農協の取扱高の減少も影響している可能性もある。これが一過性のものであるか不透明ではあるが、状況を正確に分析し、対策を講じていく必要があると認識している。
- ・一方、脱炭素やカーボンニュートラル、SDGsなど、世界規模の課題解決に向けた取り組みは高い評価を得ているほか、デジタル技術を軸とした産業振興やビジネスモデルづくりに取り組んでいる。道半ばであるものも含め、これまでの取り組みの評価など、忌憚のないご意見を頂戴し次につなげていきたい。
- ・まちづくりは町民に限らず、産官学勤労言総ぐるみで取り組む必要がある。各分野から貴重なご意見を頂戴したく、よろしくご意見申し上げます。

### 3 議事（上士幌町企画財政課 遠藤主査）

- (1) 令和4年度総合戦略に係る施策及び交付金事業の検証結果について
- ・資料1～7に基づき、施策の進捗状況や数値目標の達成率、評価結果、SDGsゴールとの関連性、人口の動きについて説明。

### 4 質疑応答・意見交換

（竹中町長）

・膨大な資料から要点をかいつままで説明したところ。率直な質問・ご意見があれば伺いたい。

・人口動態について、単身者の転出が多いとのことであったが、おそらく仕事の関係によるものであると思われる。本町の人口動態で特徴的なのは、都市部からの社会増が多いということと、転出の場合は十勝管内など近隣の市町村へ異動する傾向がある。ある意味では国が求めている「首都圏から地方への人の流れ」は町として実現できているともいえる。自然減については避けられず、年によりバラつきがあるが、全体としては自然減の影響で人口は減っていく流れになると思う。

・金融関係でいえば、お金の流れをはじめとした経済の動向、例えば昨年度とそれ以前とを比較して顕著な動きはあるか。

（十勝信組 中橋支店長）

・コロナ禍の経済支援で言えば、国による融資を数千万円単位で受けている例もある。9月以降から3年間無利息の据え置き期間が終わり、これから返済が始まることから、影響を受けている事業者のサポートが重要になると考えている。

・現段階では上士幌町内でコロナの影響が大きい企業は見当たらないという感覚であるが、事業者を回りながら緊急的に支援が必要なところについては伴走型支援の制度も活用し、密着して取り組みたいと考えているが、現時点ではそれを必要としている企業はないと感じている。

（竹中町長）

・令和4年度の人口動態における122人の減という結果については時間の経過とともに見えてくるものもあると思われる。

・今年の動きとして、脱炭素・カーボンニュートラルにかかわるものが大きかった。先行地域に選ばれたこと、国による補助制度が今年度から始まる。今日から太陽光発電に関する補助金の受付も始まったが、相当のニーズがあると感じている。

- ・道の駅の状況を見ても、駐車場にあるキャンピングカーの台数などはこれまでより多く、観光客についても動き始めていると感じている。
- ・農業関係では酪農において生産調整が依然としてあることから、厳しい状況がもうしばらく続くものと考えている。
- ・コロナが5類相当となり、インフルエンザと同様の取り扱いとなったことから、人の動きが出てくる。資料中にある人の流れに関する指標については今後好影響となるものと考えている。

(林対協 中田会長)

- ・SDGs や脱炭素先行地域に関連すると思うが、木質バイオマスの関係では、大手製紙会社の関連企業の集会の席上において、製紙原料と木質バイオマスの原料の需給について話題となった。北海道内での木質バイオマス・製紙それぞれの原料として、300万トン程度の需要があると言われていたが、供給能力が180万トン程度しかないといわれている。資源のし烈な奪い合いになるとあった。
- ・また、過日農林課長とも打合せをしたが、上士幌町で木質バイオマスを使用して熱源の一端とするような予定があるならば、化石燃料の価格如何に関わらず、カーボンニュートラルに向けて取り組むという動きになると思っている。圧倒的な需給バランスが崩れている状況もあるため、山から未利用材を持ってくるような大仕掛けなものではなく、すでに粉碎したものを供給してもらい、それを燃焼する設備を検討したほうが初期投資も安く、供給も簡単になるのではないかと考えている。本会議の内容とは直接関係ないが、町で取り組む予定があれば参考にさせていただきたい。
- ・もう一つは、森林環境贈与税について、結構な財源があると聞いている。ためておいてもいいことがないとも聞いているので、ぜひ有効活用していただきたい。

(竹中町長)

- ・林業関係の立場からの意見を伺った。まちづくりの基本的なベクトルとしては脱炭素・環境にやさしいまち、地球環境にやさしいまちづくりをすることである。上士幌町にある資源、森林がもつCO<sub>2</sub>の吸収・酸素を供給するという機能だけでなく、カーボンニュートラルの貴重な資源であるので、森林を適切に管理し、材として利用することで森林の地域循環を図る。
- ・その一つとして、庁舎の改修・改築についても脱炭素や経済的なコストの面に価値を求めて進める。木材の利活用についても考える必要があり、使ってから熱源とすることが重要と考えている。また、熱源については十勝大雪森林組

合を介して活用できれば脱炭素に取り組むことが新たなまちの価値となると考えている。

・それらの動きに対して、企業版ふるさと納税で応援してくれている。昨年度は2億5000万円ほどの寄付があった。新たなことに挑戦するためのコストに対して先駆的に取り組むことに対して支援してくれている。単に新しいことにとりくむだけでなく、社会的な意義を含めた資金調達について考えている。欧州においてはエコツーリズムが盛んであると聞いているので、多方面で脱炭素をアピールしたいと考えている。

・省エネについては生ゴミの乾燥機・コンポストに対する助成をしている。有機野菜が注目を集めていることもあるため、省エネ、資源の循環と、地元の資源を活用した電源を活用することで、町全体として循環型社会を目指していく。

・子育てや福祉についても、遠隔地という不安を、デジタルを活用して対策を講じていきたいと考えている。こども家庭庁が発足し、国としても3兆円前後の財源で支援し、人口減少に少しでも歯止めをかけたいという意図がある。子育ての関係から意見があれば伺いたい。

(校長会 新倉会長)

まず、日ごろより学校教育へのご支援をいただき感謝申し上げます。学校教育の現状について触れたい。

・デジタル化やSDGs、カーボンニュートラルへの取り組みについて、学校教育の現場にも国から積極的に取り組むよう指示があった。

・特に、SDGsについては道教委からもはっきりと示されている状況である。世界的な流れの中で日本でも取り組んでいるものであると認識しているが、上士幌町では以前より小学校、中学校においてSDGsの教育に取り組んでいる。

・デジタル化についてタブレットの配布は、管内に先駆けて取り組んでいると認識している。

・昨年度末に上士幌中学校がユネスコスクールへ登録された。管内中学校では初めて、小学校含めても6校目となっている。

・すでに上士幌高校がユネスコスクールに登録されているので、高校の活動も参考にしながら中学校においてもSDGs、デジタル、カーボンニュートラルに関する取り組みを進めていきたい。

・先日、中学校の修学旅行が行われた。コロナ禍の影響により3年ほど道内で修学旅行をしていたが、4年ぶりに東京を目的地として修学旅行をすることができた。町長のご尽力もあり、生徒が環境省に赴き、担当課長から直接、地球温暖化に係る講義をしていただいた。明日(6月20日)修学旅行のプレゼンテ

ーションをする。一年間のSDGsに係る取り組みは、今後も引き続き実施していくが、そのスタートとして大変貴重なお話しをいただいたと思っている。年度末にもSDGsに係る取り組みの成果の発表会を行う予定である。お時間があれば見に来ていただきたい。

- ・また、かみしほろ学園の取り組みについても紹介したい。資料の中で全国学力学習調査や体力テストの結果も紹介されていた。数値目標の達成には難しい状況であると認識しているが、全国的に進められている職員の働き方改革や、専門性を向上させるための指導を実現するための取り組みとして町費で採用している職員を数名配置していただいている。ご支援に感謝するとともに、数値目標を達成できるよう取り組みたいと考えている。

(竹中町長)

- ・ほかにご意見等なれば十勝管内全体の視点からお話しをいただきたい。

(十勝総合振興局 相内地域創生部長)

- ・資料を拝見したところ、A評価、B評価が多く、しっかりと取り組んでいるという理解をした。なかには進捗が芳しくない、思いどおりに進んでいない項目もあるかと思うが、振興局としてお手伝いできることがあれば担当部署にも伝えてお手伝いをしていきたいと考えている。

- ・上士幌町がゼロカーボン、SDGs、デジタル化という分野において、道内だけでなく全国においても先進的に取り組まれていると評価している。町民の方々のSDGsへの意識の高さなど敬服している。

- ・昨年までのコロナの影響もあり、思うように進んでいないものもあるかと思うが、5月8日から感染症法上の取り扱いが2類相当から5類という、季節性インフルエンザと同等の取り扱いになったところである。帯広市内でもスーツケースを持った観光客らしき人が多くみられるようになり、人の流れも戻ってきたと考えている。コロナについては全数把握から保健所単位での定点把握に変わっている。先週は十勝が全道のなかで上から5番目の数となり、若干の増加傾向がみられている。ただちに何かを止めるというものではないが、改めて日常的な感染症対策に対する意識を持たなければいけない。

- ・総合戦略の中でも話があったが、あらゆる分野で人材の確保・人手不足が当面する課題であると考えている。交通・物流の分野でも人材不足が課題となっており、バスの運転手不足や高齢化という問題を抱えている。来週、管内の今後5年間の地域交通の持続性に関する地域公共交通計画を協議会で策定する予定である。

- ・上士幌町は交通ターミナルの設置、自動運転バスやドローン配送など、先進

的な取り組みをしているが、今後とも管内各市町村の意見を聞きながら、公共交通、物流の維持・確保に取り組むたいと考えている。

- ・ 振興局は地域のために課題解決のお手伝いのために存在している。役場や町民のために取り組んでいきたいと考えている。今後ともよろしくお願い申し上げます。

(竹中町長)

- ・ 若干早いですが、審議内容にはご了解をいただいたということで閉会したい。

- ・ 第Ⅱ期の地方創生総合戦略は半ばを迎えている。冒頭に申し上げたとおり、第Ⅰ期はそれなりの成果をあげたが、第Ⅱ期は質的な向上、量的な補填する計画であると考えている。

- ・ 基本目標である農業や観光業、商工業など地場産業の振興、あるいは子育て、健康、福祉、さらには移住定住と町の新たな拠点創出など様々な目標を設定している。第Ⅰ期と変わるものではないが、第Ⅱ期においても引き続き取り組んでいく。

- ・ 第Ⅱ期の基盤としての脱炭素・デジタルの面インフラ整備をしたうえで成長・発展に活かしていくことで、最終年度には一定の成果をもって上士幌町の新たな形を皆様方に報告したいと考えている。必ずしも良い状況ではないが、ローカルではあるがグローバルの視点も持って、地域振興・総合戦略のさらなる見える化に向けて頑張っていきたいと思っている。今後とも変わらぬご支援ご協力についてお願い申し上げます、閉会の挨拶としたい。

(企画財政課宮部課長)

- ・ これにて閉会とする。